

プラスチック射出成型機

重量・設置面積5分の1

ライン組み込み容易に

新興セルビック

金型関連機器メーカーの新興セルビック(竹内宏社長、03・3785・7800)は重量、設置面積を一気に従来機種の約五分の一にした、型締め力十七・五ト級の縦型プラスチック射出成型機を開発した。小型化でラインに組み込みやすくなり、生産コストの削減にもつながる。射出機構のスクリーンを従来の棒状から円すい型に改良、この機構で日米欧十五カ国で特許申請中だ。同五百五十ト級の各機種の開発にも着手、九八年度をメドにシリーズ化する。二十二日から東京・晴海で開く日本プラスチック・ゴム見本市(JP93東京、日本プラスチック見本市振興会主催)に出展する。

(プラスチック射出成型機は一産業一語参照)

円すいスクリーン特許申請

新開発の装置は、プラスチックを溶かして金型に押し込むスクリーンを、従来は棒状で長さ三十五センチ程度だったのを、同七センチの円すい型にした。これにより装置全体で重量三百ポンド、設置面積は幅七十センチ、奥行き六十センチと畳半分ほどになり、十七・五ト級の型締め力を持つ従来製品に比べ、いずれも約五分の一に小型化した。

凸型、凹型の金型を締めると、インキングも自由に設定でき、0・005〜0・01mmの範囲で

金型のすき間の調節も可能。加工時に発生するガスや空気を効果的に抜き取ることができる。金型内にたまったガスや空気が反発がなく、樹脂を押し込む力が少なくて済むようになったため、十七・五ト級の小型機でありながら六十ト級の射出能力が得られるとしている。

キャスター付きで簡単に移動できるため、成型加工を組み立てて工程に組み込むなど、ライン設計の変更にも自在に対応でき、よりの生産効率の高い生産ラインに改善できる。組み立て工程と成型工程間の物流コストなどを削減して「製造原価の圧縮にも役立つ」(竹内宏社長)としている。価格は一台三百五十万円で、今月下旬に発売。初年度六十台程度の販売を目指す。

新興セルビックは金型、射出成型関連機器を製造、販売し、九三年八月期の売上高は約三億円。新型機は金型関連企業の開

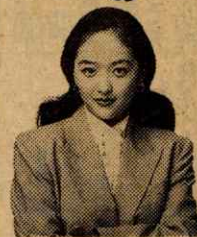


日経産業新聞

発行所 日本経済新聞社
 東京本社 〒100-6603 3270-0251
 東京都千代田区大手町1-9-5
 振替口座 東京 3-555番
 大阪本社 〒540-0606 943-7111
 大阪市中央区大手前1-1-1
 振替口座 大阪 2-73217番
 名古屋支社 〒460-0522 322-2561
 名古屋市中区正木2-3-1
 振替口座 名古屋 3-6149番
 西部支社 〒812-0922 473-3300
 福岡市博多区博多駅東2-16-1
 振替口座 福岡 1-1248番
 札幌支社 〒060-0111 281-3211
 札幌市中央区北1条西7-3

©日本経済新聞社 1993

総合力こそ私たちの最大の力です。



技術で選ばれています。東洋情報システム

発担当などのエンジニア約四十人で組織している「アイデア工房」が基礎技術を開発した。同工房は研究開発投資を二社で負担しきれないこの分野の中

堅・中小メーカーを支えるために発足。現在は新興セルビックの売上高の七割を運営費と技術料に相当する発案料にあてている。